



愛知聖ルカ教会 イースターメッセージ

主の復活、ハレルヤ

<ルカによる福音書 24 章 1～10 節を通して>

管理牧師・司祭 丁胤植(チョン・ユンシク)

復活節とは、旧約時代、神様がイスラエル民族をエジプトでの奴隷生活から解放してくださったように、わたしたちもイエス・キリストを通して罪と過去の過ち、傷、暗い記憶に縛られての生き方から離れて、神様の子どもとして真の自由と解放を祈り、それを得ることを喜び感謝するシーズンでもあります。特に、教会は伝道と典礼の中で、イースター・パスカル・キャンドルを聖別して、キャンドルに「乳香の塊の釘」を差し込んで祈ります。

“清い栄光あるみ傷により、主なるキリストがわたしたちを守り、保って くださいますように。アーメン。”

イエス様の受難の時、お体に付いた五つの傷を覚えて、キリストの生き方を私たちの人生の中で覚えるという意味ではありますが、パスカル・キャンドルの五つの傷は異なる意味を持っています。それは、キリストの五つの傷に香料が塗られたことを意味します。癒し、永遠の安息、平安の意味です。ルカの 24 章を見ると、女の人たちは用意しておいた香料を持ってお墓に行きます。香料は葬儀の際に必要な物で、葬る前に遺体に塗る風習がありました。ところが、ユダヤ人たちには安息日を厳格に守っていたので、安息日には香料を買うことも出来なく、イエス様のお墓まで移動することも許されませんでした。それで女の人たちは安息日が終わってから、やっと香料を買うことが出来ました。

女の人たちは翌朝、週の始めの日の朝早く急いでイエス様のお墓に向かいました。イエス様の葬儀に急いで行ったため、遺体に香料を塗ることが出来なかったからです。イエス様の遺体に香料を塗って差し上げることだけが唯一のやり手だったので、自分たちに出来ることをするために朝早くお墓に向かったのです。イエス様を亡くした彼女たちには、希望は見えなくなっていました。それでも自分に出来ることをしたことはとても大事なことだと思います。その思い、考え、行いが真の復活に繋がる道だと思います。復活を迎える私たちの祈りの生活が、このように行いの実践につながるものとなりますように。

主に感謝。

Happy
Easter

イースター(復活日) 聖餐式のご案内

2025年4月20日(日)

午後 2 時 30 分より

司式・説教 司祭 丁胤植(チョン・ユンシク)

